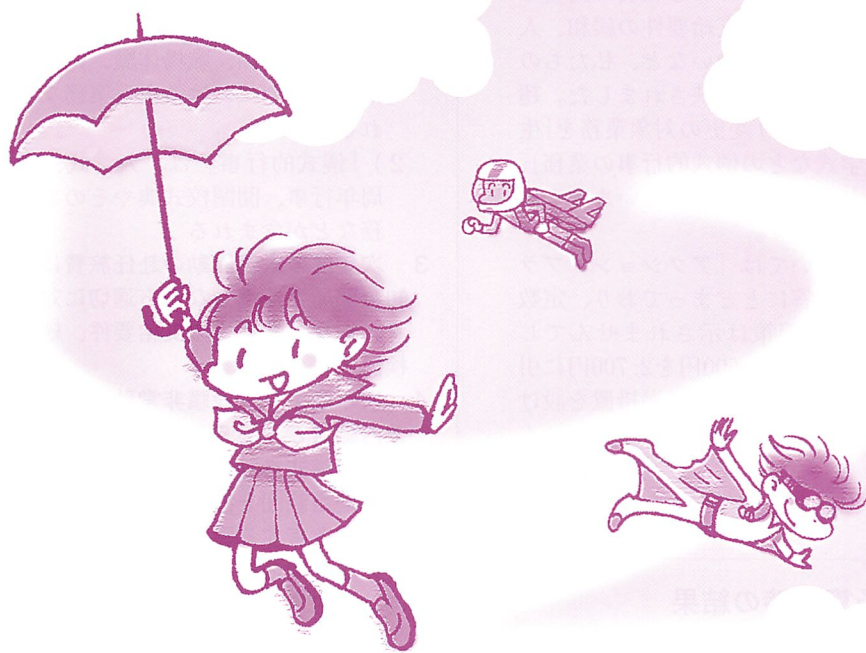


# 道教組

DOKYOSO NEWS vol.540



## 道教委と定員・教育予算最終交渉

全教第36回定期大会「要求の多数派」をつくる  
とりくみで、全教運動の前進を

退職される皆様 ごいっしょに 道退教

“ぼっち”じゃない……ひとり分会から……その⑮

わたしのとっておき

# 道教委と定員・教育予算最終交渉

## 部活動指導手当は実質引下げ、割振り変更対象業務は拡大

1月25日(金)、道高教組・道教組は定員・教育予算最終交渉を行いました。道教委は佐藤教育長らが出席しました。臨時・非常勤



職員の休暇制度の改善、障害のある職員の勤務の弾力的設定、単身赴任手当の支給要件の緩和、人事異動に伴う赴任旅費の特例扱いなど、私たちの要求ととりくみの成果が一定反映されました。超過勤務解消に関わり、割振り変更の対象業務を「生徒の引率業務」「入学式などの儀式的行事の業務」にも拡大させるなど、十分とは言えないまでも重要な前進を獲得しています。

一方、超勤縮減については「アクション・プランの改善」といった回答にとどまっており、定数改善などの抜本的な改善策は示されませんでした。また、部活動指導手当3,600円を2,700円に引き下げることについて、2年間の経過措置を設けるとしたものの、引き下げの実施は撤回しませんでした。

主な交渉結果は、以下の通りです。

### 定員・教育予算交渉の結果

1 部活動指導手当は「4時間3,600円」か

ら「3時間2,700円」に引き下げる

1) 部活動指導手当 1日の単価を3時間以上2,700円に引き下げる

2) ただし、2年間に限り、4時間以上指導業務を行った場合、3,600円を支給する経過措置を設ける

2 割振り変更対象業務に「生徒の引率業務」「儀式的行事の業務、及びその事前準備業務」を追加する(13業務へ)

1) 「引率業務」は、部活動のほか、地域行事への参加、職場体験、大学や専門学校の説明会における引率業務などが含まれる

2) 「儀式的行事」は、入学式、卒業式、周年行事、開閉校式典やその事前準備業務などが含まれる

3 次年度の人事異動の赴任旅費について、知事部局と連携しながら適切に対応していく。単身赴任手当の支給要件、緩和にむけ検討する

4 次年度より一般職非常勤の結婚休暇は定数内職員と同様5日に

特別職非常勤の結婚休暇の新設、忌引休暇の適用範囲を拡大へ

5 障害を有する職員に対する早出遅出勤務と休憩時間の弾力的な設定を次年度導入に向け検討する

## 全教第36回定期大会

### 「要求の多数派」をつくるとりくみで、全教運動の前進を

2月9・10日の全教定期大会に、道教組から、斎藤書記長、全教渡島阿部委員長、全釧路中川執行委員の3名が参加しました。討論には、中川さんが参加し、職場におけるTK(多忙化解消)プロジェクトのとりくみを報告しました。

発言内容への反響は非常に大きく、休憩時間のたびに、詳しく話を聞きたいという人が殺到しました。

中川さんの職場は1人分会ですが、管理職も含めた職場の共同をつくり出し、多忙化解消への議





会場に掲示されたTKプロジェクトのポスター

論を前進させました。

小畑書記長は、討論のまとめで中川さんの発言を取り立てて取り上げ、「職場の人たちに、声を出すことで職場を変えていけるとの勇気を与えた」「声を出す人がいることで、本当は声を出したかった人たちが一緒に声を出せるようになる、そうした『要求の多数派』をつくるとりくみだ」と意味付けました。

対話と共同を広げ、「要求の多数派」をつくるとりくみを各職場・地域からすすめていくことが、私たち道教組の運動を大きく前進させることになるのだと改めて強く感じる事ができた大会でした。



## 職員室を変えるTKプロジェクト

全釧路教職員組合 中川 由美

私は2年前に始まったTKプロジェクトのメンバーの1人です。様々な活動を進めると同時に「自分の職場でTKを探る」実践を行い、プロジェクトの考えによる職員室の変容を期待しました。

まずは職員室でTKプロジェクトが立ち上がったことをアピールすることから始めました。作成したチラシを配りながら、「自分の要領が悪いせいじゃないよ」など、多忙について声を上げていいんだという風土づくりにとりくみ、忙しさについて自由に話せるようになっていきました。

TKプロジェクトで作成しているポスターも有効でした。インパクトのある見出しがついているポスターが発行されるたびに印刷機の近くの壁に貼り、増やしていきました。印

刷をするたびに目に触れ、ポスターが投げかける問題について考えます。すると、会議の発言に変化が見られました。管理職から閉庁日や定時退勤日の話が出たとき、ポスターの言葉を使っただけの発言が相次ぎました。素晴らしい変化を感じ、うれしくなりました。

かといって、管理職と対立しているわけではありません。校長はPTA総会で「うちの学校もブラックです。先生たちは遅くまで仕事をしている。どうかご協力を」と発言しました。その後、保護者から「テレビで言っていることは都会の学校のことだと思っていた」「先生、無理しないでね」などと言われた反応を校長へ伝えました。校長は発言に自信を持ち、次は学校だよりに「教職員の働き方改革」という記事を載せ、教員の勤務時間などを掲載しました。賞賛の声を送ると、次はさらに詳細な情報が掲載されていきます。

教頭とは日常的に多忙化解消に関する話をするようにしています。先生方から聞いたことを伝えたり、教頭の悩みも聞いたり。組合としてよりよい職員室にしていくことを全面的に支援する姿勢で、絶えず進言し、多忙化への意識を途絶えさせない声かけをしています。「超勤アンケートを行いたい」との考えを聞き、いっしょに準備を進め、2回実施しました。結果、全員が超勤、特に学級担任は相当な超勤があることがデータとして明らかになりました。

これをもとに、1月の職員会議で管理職から多忙化解消についての具体的な提案がなされました。多くの先生が意見を述べ、前進が見られました。各分掌での見直し案を持ち寄り、2月の職員会議でまた話し合いがもたれます。

多忙化解消の根本的な解決は、職員室内だけではできないことの方が多いですが、TKプロジェクトの活動を生かしながら、自分たちの職員室は自分たちの手で変えていくことができるのだと感じることができました。職員室で自由に話せる風土をつくり、みんながつながり、発言し、少しずつでも自分たちで考え進めている実感を持てることが大事だとわかりました。



# 道教委が「北海道の部活動の在り方に関する方針」を決定

## 改善に向けた方向性が示される一方、多くの課題も

道教委は「北海道の部活動の在り方に関する方針」を1月30日に決定しました。

### ●「適切な休養日等の設定」について

部活動における休養日および活動時間について、「週当たり2日以上休養日を設ける」「1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度」と基準を示したことは、子どもたちへの過度な負担や教職員の長時間過密労働を解消する上で一定の指標を示すものです。

しかし、「大会等」の前1か月間や、「長期の休養期間（オフシーズン）」を設ける場合には、特例的な取扱いが可能となっています。「大会等」については、素案の段階では「大会やコンクール」となっていたものが、決定された方針では「大会、試合、コンクール、コンテスト、発表会等」と広がり、ほとんどの期間が「特例的な取扱い」となりかねません。

### ●「適切な指導の実施」について

適切な休養の必要性や過度の練習の危険性を指摘するとともに、「専門的知見を有する教師や養護教諭などと連携・協力し、発達の個人差や成長期における体と心の状態などに関する正しい知識を得た上で指導を行うこと」としたことは、必要な指摘です。今後、各学校の教職員での民主的集団的な議論を経て、実態に応じた具体化が求められます。

### ●「学校単位で参加する大会等の見直し」について

「大会等の統廃合や簡素化等を主催者や競技団体等に要請する」「参加する大会等の回数に上限の目安などを定め」ることなどの見直しを求めていることは、過度な活動を抑制する上で重要です。今後、競争の過熱化をまねいたり、生徒や教職員の過度な負担にならないよう、全国的な規模の大会・発表会等のあり方を見直しを行うことが求められます。

### ●「適切な運営のための体制整備」について

「部活動の方針の策定等」として、顧問に年間の活動計画や毎月の活動計画及び活動実績を作成

し校長に提出することを求めています。教職員のさらなる負担増や自主的な活動の抑制につながる危険性があります。顧問まかせにせず、生徒の声を聞き、職場での民主的集団的議論によって学校全体の体制づくりを行うことが必要です。

### 「北海道の部活動の在り方に関する方針」の概要

- 1 適切な運営のための体制整備
  - ・年間の活動計画ならびに毎月の活動計画および活動実績の作成・提出
- 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進
  - ・休養を適切に取る必要があること
  - ・過度の練習が必ずしも体力・運動能力の向上につながらないことを正しく理解すること
- 3 適切な休養日等の設定
  - ・週当たり2日以上休養日を設ける
  - ・休養日には学校で行う朝練習や自主練習も行わない
  - ・1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度
  - ・大会、試合、コンクール、コンテスト、発表会等（以下、大会等）の前で、やむを得ず活動を行う場合は、代替の休養日を設ける
  - ・積雪のため屋外での活動が制限される部活動や、主に冬季に行われる部活動等について、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設けることを前提に、特例的な取扱いも
- 5 学校単位で参加する大会等の見直し
  - ・大会等の統廃合や簡素化等を主催者や競技団体等に要請
  - ・参加する大会等の回数に上限の目安などを定め、参加する大会等を精査
- 6 部活動の充実に向けて
  - ・部活動顧問と生徒の信頼関係づくりを



## 2月6日、道議会に教育全国署名4万3558筆を提出

全道の皆さん、長い期間の署名活動ありがとうございました。12月15日、「教育全国署名北海道集約集会」に全道から教職員・保護者・市民30数名が集まり、今年の活動を振り返り、各地のとりくみを交流しました。

事務局は、皆さんに集めて頂いた教育全国署名4万3558筆を、2月6日、道議会事務局に提出したことを報告いたします。提出行動に参加したのは新保事務局長（道教組）、本多事務局次長（高教組）、斎藤道教組書記長です。

道議会の紹介議員は、最終的に自民3名、公明1名、民進11名、共産3名、結志の会10名の計28名(昨年31名)です。教育全国署名の要求項目が、道議会の論議に反映し、少人数学級の前進や教育条件整備がすすむよう、今後も粘り強く運動を続けていきましょう。

また、国への提出は2月25日を予定しているそうです。皆さんに集めて頂いた国提出用の教育全国署名は、2月13日、紹介議員の紙智子議員（共産）、逢坂誠二議員（立憲民主）、そして全教の3か所に分け、4万3777筆を送付しました。現在北海道選出の国会議員5名が紹介議員になっています。



### ごいっしょに

## 退職される皆様 再任用で働く皆様

### ●ひとりぼっちをなくそう



親睦旅行、スポーツ、各種サークル等の楽しみ活動を通じて、会員相互の交流を強めています。胆振東部地震では、直ちに会員の安否・状況把握を、「ひとりぼっちをなくす」を合い言葉に取り組みました。

### ●ゆきとどいた教育を求め、子どもと教育を守る

「ゆきとどいた教育を求める全国署名」では、

各支部が奮闘し、毎年約5,000筆の署名を集め、教職員や保護者・住民との懇談会等を開催して地域での協同をつくりだす牽引車の役割を發揮しています。

### ●教え子を再び戦場に送るな！

憲法9条と子ども・青年の命を守る退職教職員1万人アピール運動に賛同し、全国10,115名の名前入りポスターに名を連ねました。また、道高退教等と「教え子を戦場に送るな！北海道の会」(略称:「送るな会」)を立ち上げ、北海道独自の名前入りポスターを作成し、各地域での平和・憲法・教育を守る運動を呼びかけ、様々な団体・個人と連携して、活発に活動しています。





信頼と共同の関係づくり…

## 全国青年教職員学習 交流集会に参加して

宗谷教職員組合 利尻町立利尻中学校  
相座 拓己

全国青年教職員学習交流集会「TANE!」、この学習交流会の場で最も驚いたのは、参加者の年齢層です。20代最後の年を過ごす自分が参加者のなかでは、中堅世代だったと考えます。若さゆえなのか、発言や行動に勢いがあり、こちらも元気が湧き「学校でもこの人たちは職場づくりの中心なのだろうなあ」そんなことをぼんやりと考えていました。

### ◆教師としての生きがいを回復する場

現在北海道の学校現場には、学力至上主義による「学力向上プラン」や「PDCAサイクル」の確立が求められ、型にはまった授業づくりが各教育局主導のもと進められている



ように感じます。それと一体に、「働き方改革」の名の下で変形労働時間制の導入や機械的な業務改善が進められようとしています。

田畑が違うのに一律に同じ農作物を育てることはできません。その土地の気候、土壌の特質、面積などあらゆる要素を踏まえて、農家は最適の作物を育てることに尽力します。

私たちの職業はどうでしょうか。その地域の歴史や特性、さまざまな環境要因のなかで目の前の子どもたちは生きています。そこを理解せず、あるいは見ようともせず、学習や生活について要求や指導をしたところで不信と対立の芽が深まります。それが今、学校現場に求められている改革の帰結なのではないかと考えています。

こういった改革の流れに抗するヒントが初任者の女性の先生から語られました。それは「今日、

この会に参加して職員室で話したいのは、こういうこと！だと思いました」というものです。

休みの日に学習会に参加することへの周囲の反応は「変わり者」「物好き」「大変だね」というのが一般的なものと想像します。しかし、彼女がそうであるようにこういった場に参加して、自分がめざした教師像や理想とする教育実践を今の自分と重ね合わせ、実践の内実にある価値を見出ししていく。その過程で同僚と語り合い、自分を見つめ直し「教師としていかに生きるべきか、どう生きたいのか」を再考し、教師としての生きがいを回復していく場。それが「TANE!」に凝縮されています。

### ◆改革に抗して、豊かな実践を紡ぐもの

私たちは社会や教育を取り巻く諸改革の中、子どもに向き合い、寄り添い、日々過ごしています。一連の改革に抗し、豊かな実践を紡ぐのは実践の主体である私たちと目の前の子どもたちです。

それを個ではなく教師集団として創っていくことの意味や価値を再認識しました。一人ではできないことも集団であれば越えていける。初任者の先生の言葉にはそんな意味が伏在していたと考えます。

そして、「楽しく学びのある時間をとものつくる」「どんな子だって幸せに生きていきたいと願っている」という根幹は一致できるはずです。そこに立ち返り、組合の仲間は勿論その枠組みを越えて、民主的学校づくりをとものにすすめていく仲間として同僚と関わっていききたいと強く思いました。

今回、「TANE!」に参加し、諸改革の中でさまざまな困難に向き合い、生きる同年代の先生方と出会い、改めて子どもや同僚との不信と対立ではなく信頼と共同の構造を組織していきたい、そう強く感じています。





## “ぼっち”じゃない！……ひとり分会から…… その⑮

全渡島教職員組合 七飯町立大沼小学校分会

角田 康（教諭）

### 一人ひとりを大切に…私の原点

函館駅を夕刻出発し、新採用で赴任地に。急行「まりも」を釧路駅で乗り換える。まだ見ぬ世界への期待と不安。車窓には物悲しい景色が延々と続く。鉛色の空、だらんと手を垂らしたような不気味な木々が、不安感を掻き立てる。ようやく到着した根室駅。そこで目にしたのは？

『歓迎！ようこそ！』と書かれた手作りの横断幕！ジャージに長靴。見事に統一された？泥臭い集団が、あふれる笑顔で迎えてくれました。

学校での挨拶後、一人の先輩が世話をしてくださいました。銭湯に連れて行ってくれ、気疲れもするだろうからと、のんびり一人でくつろげる時間と空間を。今一番有難いと思えることをさりげなくしてくれる気配り。先輩の温かさが、私の不安を一掃してくれたことを今も覚えています。

私の赴任校は、根室市に三つある大規模校の一つ。全校児童数は1,200人を超えるマンモス校でした。市内3校は良きライバル校。研究はもちろん、少年団活動や教職体でも、日々しのぎを削っていました。



組合には、みんな加入していましたから、当然のように私も加入。職員会議では、「思った事を何か言え！」とよくつつかれたものです。何もわからず発言しても、彼の言いたいことはこういう事と、いつも誰かがフォローしてくれ、意見を言ってくれます。

野球、サッカー、バレーボール…。先生方で分担して暗くなるまで少年団活動。朝野球、夜は、ママさんバレーの指導。授業研以外にも、学年で毎学期一単元はやってみようと、児童の実態・教材解釈から始まり、夜な夜な部屋に集まり教材研究したことも。冬はスケートリンク作り。雪を踏み固めた後は、徹夜で2時間おきの水撒き。大会では、子ども達がテレビでしか見た事のなかったワンピースで滑走するのにビックリ！長靴アイスホッケーは、学級でチームを作り、保護者と一緒に燃えました。もちろん先生方でもチームを作り、町の大会にも参加！

泣いて、笑って、けんかして。公私にわたる教職員集団の絆。そんな集団だからこそ、困難に打ち克つ教育実践が生まれるのだと思います。

今は、一人分会ですが、組合活動も、職場づくりも、『一人ひとりを大切に』が基本です。私を育ててくれた根室での日々が原点です。



### 編集後記

▼AERA12月10日号の大特集「親と先生682人の本音」が話題になっています。▼AERAが実施したアンケートによると、保護者も教師も、9割以上が「学校が不自由」だと感じています。▼学校の多忙化は、教育条件の問題として、保護者や地域の方と共同できる条件は整っています。▼全釧路の中川さんのとりくみは、1人分会でも、職場とつながり、保護者とつながることで、前進させることができると示しました。▼職場・地域で

「要求の多数派」をつくるとりくみを、大いに進めていきましょう。▼「道教組ニュース」は、次号から装いが大きく変わります。よりコンパクトに、読みやすい紙面をめざします。▼「道教組ニュース」も、職場で対話と共同をすすめる材料として活用できるよう、紙面づくりを工夫していきます。▼今後の紙面について、意見や要望がありましたら、ぜひ道教組までお寄せください。



## わたしのとっておき

“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



### 「2つのとっておき」

僕のとっておきです。一つはずっと職員室の机に飾ってあるこの旗。「やはり大切だよな」という思いで飾っています。もう一つは腕にしているこのバンド。最近買ったもので活動量計(時計の役割もしますが)です。健康に気を遣わないと…。

【大竹 宏周(赤平中学校)】



### 「刺繍」

チクチクと手を動かしていると心がシーンとなります。娘と図書館や温泉に行って二人黙々と。テスト勉強の傍らの刺繍。隣で苦悶する娘の明るい将来を祈り一針。…千人針?!今自主的に勉強を楽しむ娘の姿に安堵です。

【平川 美和(滝川第一小学校)】

# 全教自動車保険

「見積り依頼」で「マモルン・リフレクター」をプレゼント!

(マモルン・リフレクター) 光が当たると反射し、事故防止に役立ちます!



提携 東京海上日動火災保険株式会社

### 全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 **川上企画** (道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78 ウエスト12 1階  
フリーダイヤル 0120-215-789 FAX 011-218-2472

## 道教組

2019年3月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行所 川村安浩 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>